

Y5-30

青森県鱒ヶ沢町立中央病院への医師派遣業務

日本赤十字社長崎原爆病院 内科

○木下 郁夫、本田 琢也、福島 慶子、
神田 宗武、古河 隆二

近年、地方の中核病院でも医師不足が深刻である。2007年に緊急医師確保対策の一環として、国から「緊急臨時的医師派遣システム」が打ち出された。日本赤十字社は青森県鱒ヶ沢町立中央病院への派遣元となり、全国の赤十字病院への派遣の要請がなされた。その結果、当院を含め6ヶ所の赤十字病院が2008年の7月から12月までの半年間、医師を派遣した。青森県鱒ヶ沢町立中央病院は2004年には常勤医師9名であったが、その後、整形外科、内科の人員が減少し現在は外科3名（院長を含む）、内科2名となっている。病床数140を半分の70に減少させ運用し、弘前大学から週に4回、応援医師が内科外来と当直をカバーしている。演者らも実際に派遣医師として当地で診療を行ってきた。その現状、問題点、今後の展望などについて報告する。